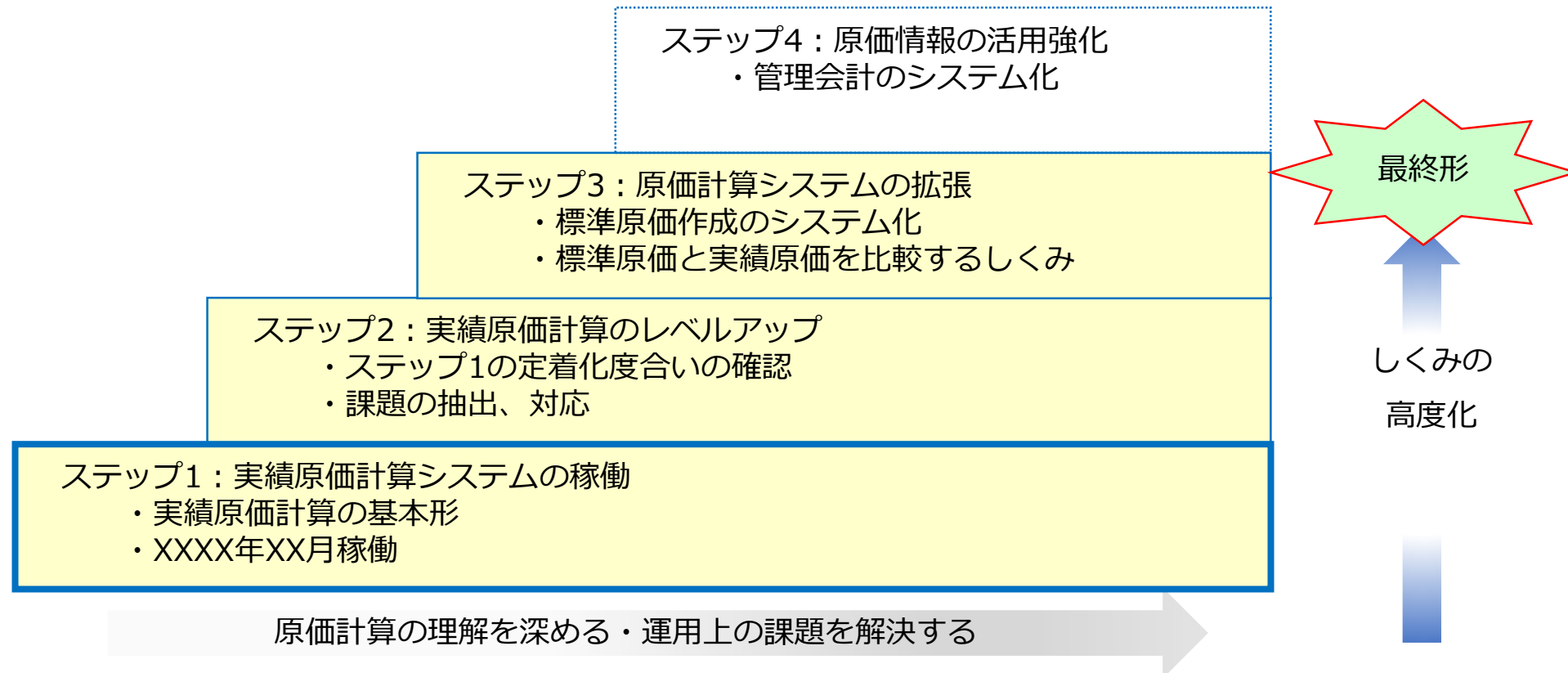




原価計算システム構築 進め方



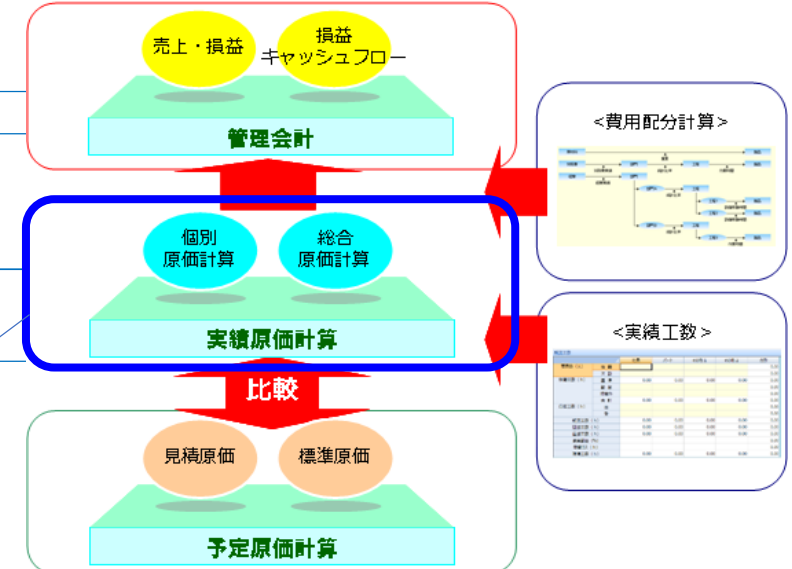
- ・最終形を見据えつつ、ステップ分けして進める。
- ・ステップ1は、比較的単純な原価計算（実績原価計算の基本形）から開始する。
- ・ステップ1の定着化度合いを確認し、ステップ2、3へ進む。
- ・ステップ1は、XXXX年XX月に運用を開始する。



ステップ1で構築するしくみ (案)

- ・ステップ1で構築する原価計算システムは、下記の通りとします。

計算方式	<p>総合原価計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製造品目別に原価集計番号を設定する (工程別計算となる) ・ 投入高 = 出来高とする ・ 累加法とする
原価費目の分類と各費目の計算方法	<p>直接材料費：月次の総平均法で算出した在庫評価単価×投入数量 (前工程完成品を含める)</p> <p>外注加工費：実購入金額</p> <p>労務費：時間単価 (工程別) ×実績工数</p> <p>設備費：時間単価 (工程別) ×実績工数</p> <p>その他経費：直接材料費×経費率</p>
時間単価、経費率の算出	時間単価、経費率は原価計算システムの外で算出し、マスタに登録
データインターフェース	csv (Excel) データを手動でインポート

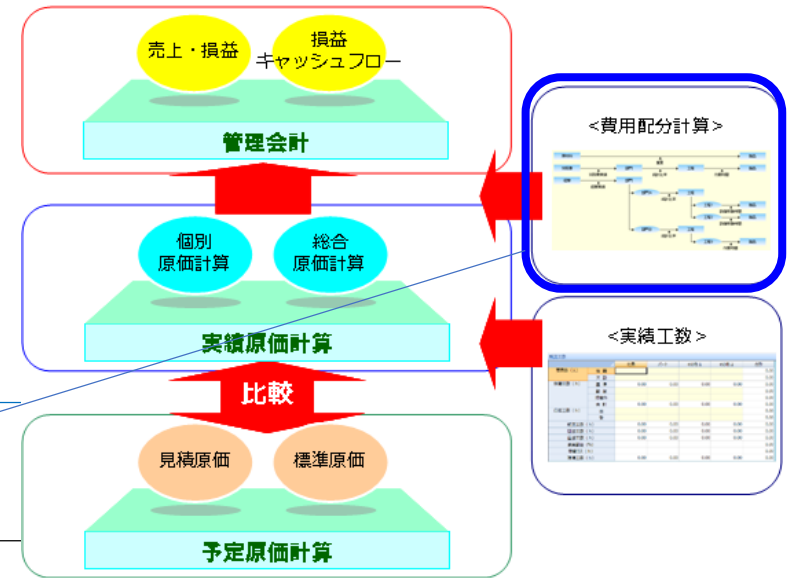


この部分を使用します。

ステップ2で構築するしくみ（案）

・ステップ1の実行状況を確認し、課題を抽出、対応します。

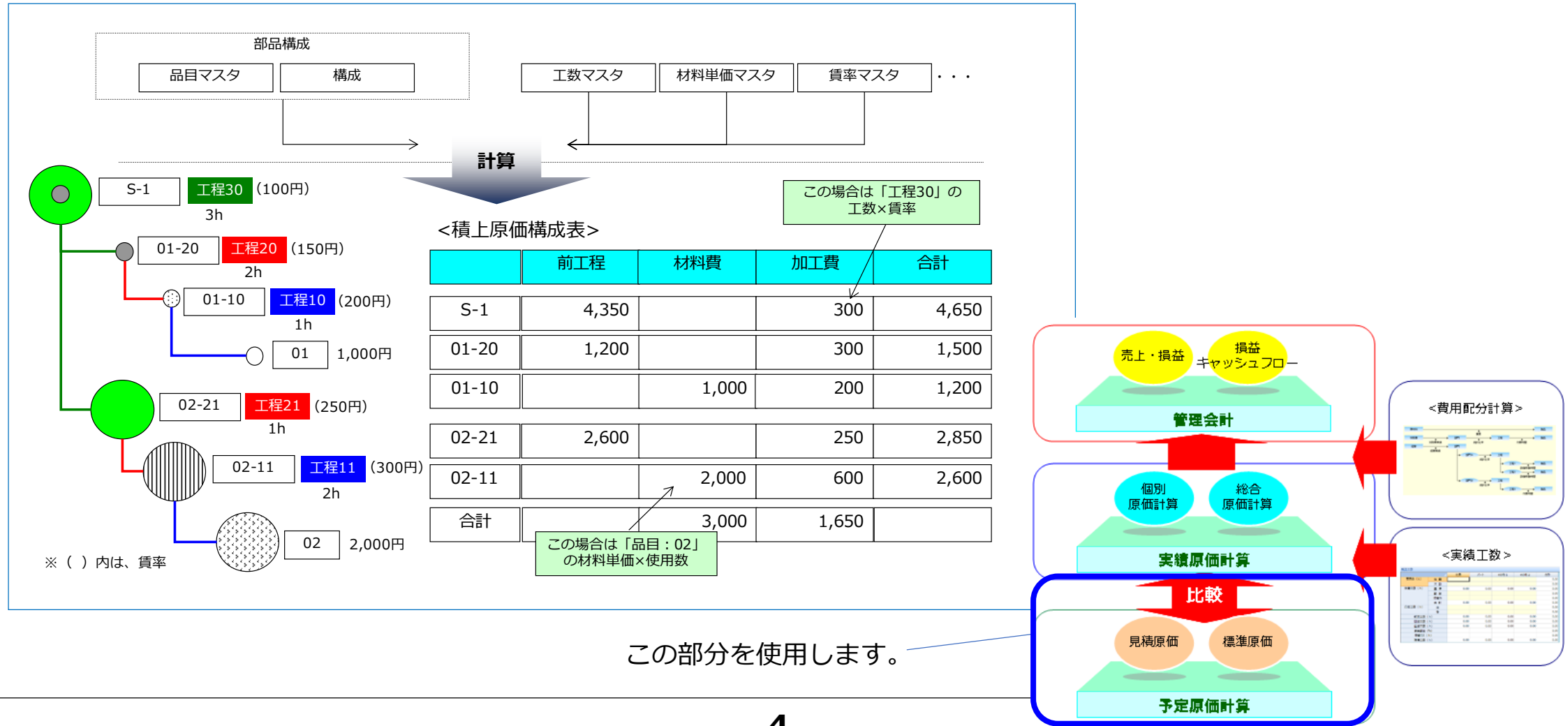
課題（対策）の例	<ol style="list-style-type: none">1)原価計算基礎データ（購入実績、入在庫実績、工数等）の精度向上2)原価費目分類の変更並びに、計算方法の改善<ul style="list-style-type: none">・配賦方法の変更（〇〇部門の費用は、××基準で配賦する）・設計開発費の製造原価への算入3)配賦率（時間単価、経費率）の自動算出、もしくは、費用配分計算の結果を原価計算表に連携する方式へ変更4)総合原価計算を実施する場合の仕掛品の扱い改善5)製造ロット別個別原価計算の実施6)データ連携の自動化7)ユーザーに対する原価計算教育の実施、業務運用ルールの徹底
----------	---



この部分を使用する場合があります。

ステップ3で構築するしくみ (案)

- 標準原価の作成をシステム化します。
標準原価と実績原価を比較するしくみを構築します。

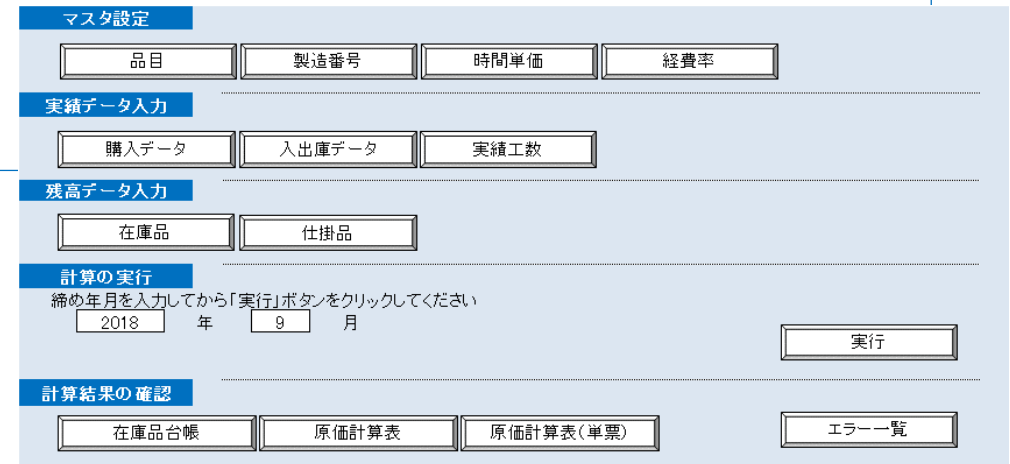


XXXX年XX月

1)方針の検討支援

「ステップ1で構築するしくみ」に記載した内容につき、理解を深めていただくため、「原価のしくみ」講座を貴社で開催します。

「原価のしくみ」講座では、Excel版の原価計算ツールをご提供します。
Excel版の原価計算ツールを使用し、構築するしくみのイメージをつかんでいただき、進め方（ステップ1として取り組む範囲など）を検討します。



The screenshot shows the interface of the Excel version of the cost calculation tool. It is organized into several sections:

- マスク設定** (Mask Setting): Includes input fields for 品目 (Item), 製造番号 (Manufacturing Number), 時間単価 (Unit Price), and 経費率 (Cost Rate).
- 実績データ入力** (Actual Data Input): Includes input fields for 購入データ (Purchase Data), 入在庫データ (Inventory Data), and 実績工数 (Actual Manpower).
- 残高データ入力** (Balance Data Input): Includes input fields for 在庫品 (Inventory) and 仕掛品 (Work in Progress).
- 計算の実行** (Execution of Calculation): Includes a text prompt "締め年月を入力してから「実行」ボタンをクリックしてください" (Please enter the closing year and month before clicking the "Execute" button), a date input field showing "2018 年 9 月", and an "実行" (Execute) button.
- 計算結果の確認** (Confirmation of Calculation Results): Includes buttons for 在庫品台帳 (Inventory Ledger), 原価計算表 (Cost Calculation Table), 原価計算表(単票) (Cost Calculation Table (Single Invoice)), and エラー一覧 (Error List).

Excel版の原価計算ツール

XXXX年XX月

2)パッケージの仮設置

弊社がデスクトップパソコンにパッケージ（ProSee/実績原価計算）を設定し、お持ちします。

本パソコンは試行用のものです。

本稼働用の環境（サーバー、パソコン、OS、Oracleデータベース）は貴社でご用意いただきます。（試行作業を効率化するため弊社とのリモート環境の構築をお願いします）

3)操作方法の説明及びサンプルデータによる試行準備

ProSeeの操作方法を説明します。

貴社の特定の製品（製品グループ）の実データをサンプルデータとしての試行準備を行います。

ご準備いただくデータの種類、データ項目、形式をご説明します。

- ・ マスタデータ（品目マスタ、原価集計番号マスタ、時間単価マスタ、経費率マスタ）
- ・ 実績データ（購入、入在庫、工数）

4)サンプルデータによる試行1

サンプルデータによる試行を行います。（残高データはないものとして計算します）

課題を抽出し、対策を検討します。（計算エラー、異常値の原因フォローを行います）

XXXX年XX月

5)アウプットの確認

ProSeeの各種アウプット画面につき、表示項目、項目名称の確認を行います。
標準画面で足りない場合の対策を検討します。

- ・ ProSeeに対し、追加の開発を行う
- ・ 貴社にてProSeeデータベースを参照し、Excel等で作成する

6)サンプルデータによる試行2

試行1で発生した課題を解決するとともに、サンプルデータの範囲を拡大します。
残高データ（在庫品台帳の品目別の残高数量、金額）の準備を行います。

残高データ、サンプルデータを入力し、試行を行います。

課題を抽出し、対策を検討します。 以下、試行を数回、繰り返します。

7)本稼働準備

本稼働用の環境（サーバー、パソコン）にProSeeを設定します。

本稼働用のデータをデータの準備を行います。

XXXX年XX月	<p>8)残高データ入力 前年度末の残高データを入力します。</p> <p>9)本稼働 当月（例：4月1日～4月10日まで）の実績データを入力し、計算します。</p> <p>本番運用のフォローを行います。</p>
----------	--

これにてステップ1を終了します。

ステップ2の開始時期は、別途ご相談します。（連続して実施することが望ましいと考えます）

詳しい説明を申しつけください。

【本件に関するお問い合わせは下記まで】

ソフトウェア株式会社

〒464-0075 名古屋市千種区内山三丁目18番10号 千種ステーションビル802号室
Tel : 052-439-6758 Fax : 052-439-6759 担当 三井 江利子